第２期大分市スポーツ推進計画（素案）

＜令和６年１１月２０日現在＞

目次

第１章　計画策定にあたって
　１．計画策定の趣旨
　　（１）計画策定の目的　・・・・・・・・・・　１ページ
　　（２）計画の位置付け　・・・・・・・・・・　２ページ
　　（３）計画の期間　・・・・・・・・・・　３ページ
　２．現状と課題
　　（１）第１期計画の進捗状況　・・・・・・・・・・　４ページ
　　（２）第１期計画の総括
　　①　成果　・・・・・・・・・・　６ページ
　　②　課題　・・・・・・・・・・　７ページ

第２章　スポーツ振興施策
　１．基本目標及び基本施策
　　（１）基本目標　・・・・・・・・・・　９ページ
　　（２）基本施策　・・・・・・・・・・　９ページ
　２．計画の体系及び数値目標
　　（１）基本施策１　・・・・・・・・・・　１０ページ
　　（２）基本施策２　・・・・・・・・・・　１４ページ
　　（３）基本施策３　・・・・・・・・・・　１６ページ
　　（４）基本施策４　・・・・・・・・・・　１７ページ

第３章　計画の推進に向けて
　１．協働による推進体制　・・・・・・・・・・　１９ページ
　２．計画推進のための財源確保　・・・・・・・・・・　１９ページ
　３．計画の進行管理　・・・・・・・・・・　１９ページ

○ 用語解説　・・・・・・・・・・　２０ページ

第１章　計画策定にあたって

１．計画策定の趣旨

（１）計画策定の目的

２０１１（平成 23）年８月、スポーツを取り巻く状況の変化を踏まえ、我が国のスポーツの推進のための基本的な法律として新たに「スポーツ基本法」が施行されました。

国において、スポーツの役割を踏まえ、スポーツ基本法に基づく「スポーツ基本計画」を策定し、今後、国、地方公共団体及びスポーツ団体等が一体となって、スポーツ施策を推進していくための重要な指針として位置付けられています。

これらを踏まえ、本市では、２０２０（令和 2）年度に「する」「みる」「ささえる」の３つの視点をスポーツの関わり方の基本としてとらえた施策を幅広く展開し、競技スポーツの振興と生涯スポーツの推進に努めるとともに、スポーツがまちづくりにもたらす効果を活用した地域づくりを推進するために「大分市スポーツ推進計画」（以下、「第１期計画」という。）を策定し、これまでスポーツの振興に関するさまざまな施策に取り組んできました。

このたび、「第１期計画」が２０２４（令和 6）年度で終了することから、これまでの進捗状況を把握するとともに、国の「第３期スポーツ基本計画」や県の「第２期大分県スポーツ推進計画」を参酌し、本市におけるスポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、「第２期大分市スポーツ推進計画」（以下、「第２期計画」という。）を策定します。

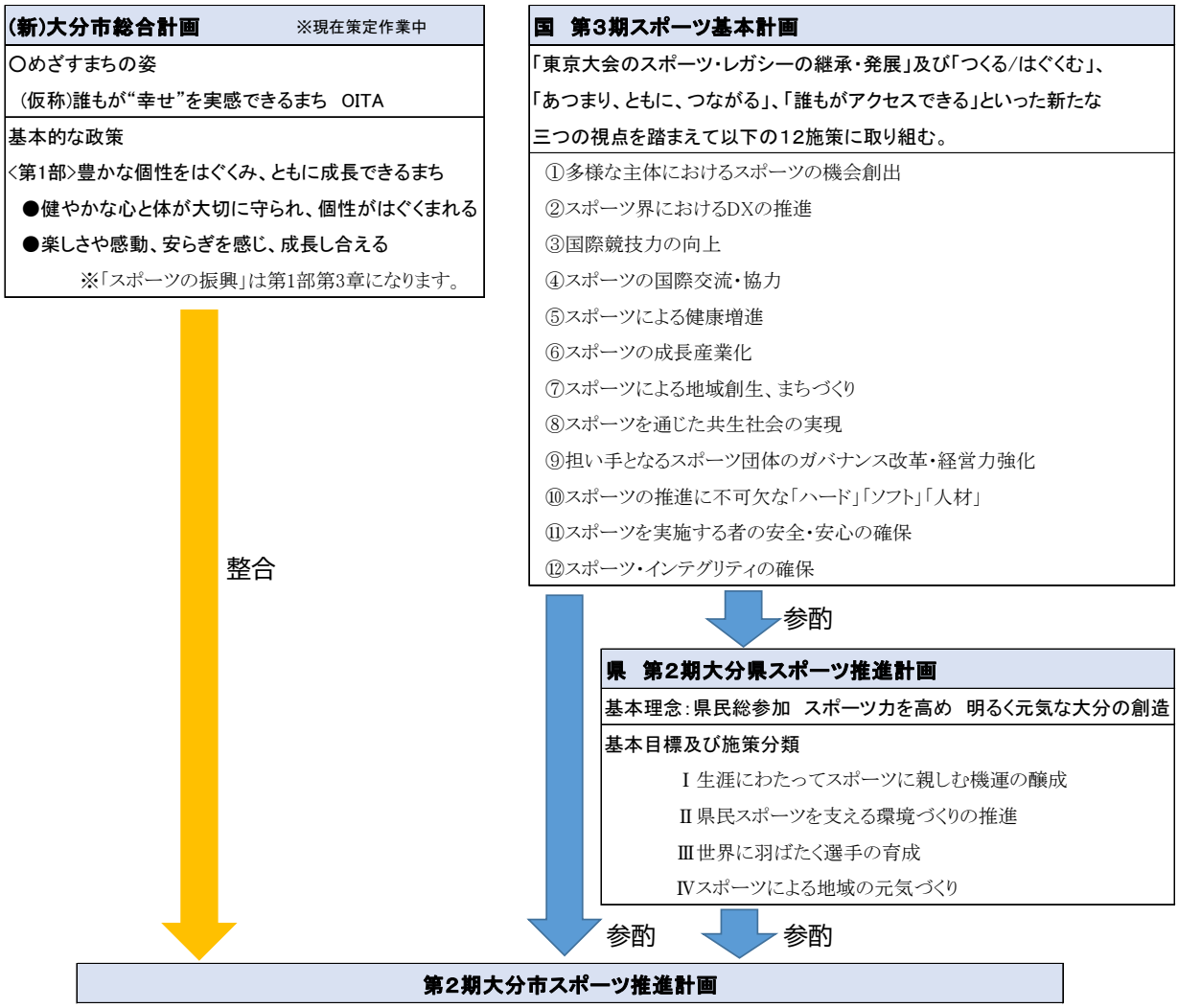
※　「スポーツ」の定義

本計画では、スポーツ基本法に基づき「スポーツ」を幅広くとらえ、野球やサッカーなどのような競技種目だけにとどまらず、散歩やジョギング、ダンス・健康体操、ハイキング・サイクリングなどの野外活動やスポーツ・レクリエーション活動を含め、レベルや内容にかかわらず、スポーツをより身近なものとするため、目的を持った身体活動を伴うすべての運動としています。

（2）計画の位置付け

「第２期計画」は、国の「第３期スポーツ基本計画」及び県の「第２期大分県スポーツ推進計画」を踏まえつつ、大分市総合計画の下位計画として、本市の特性を考慮した独自の計画として位置付けています。

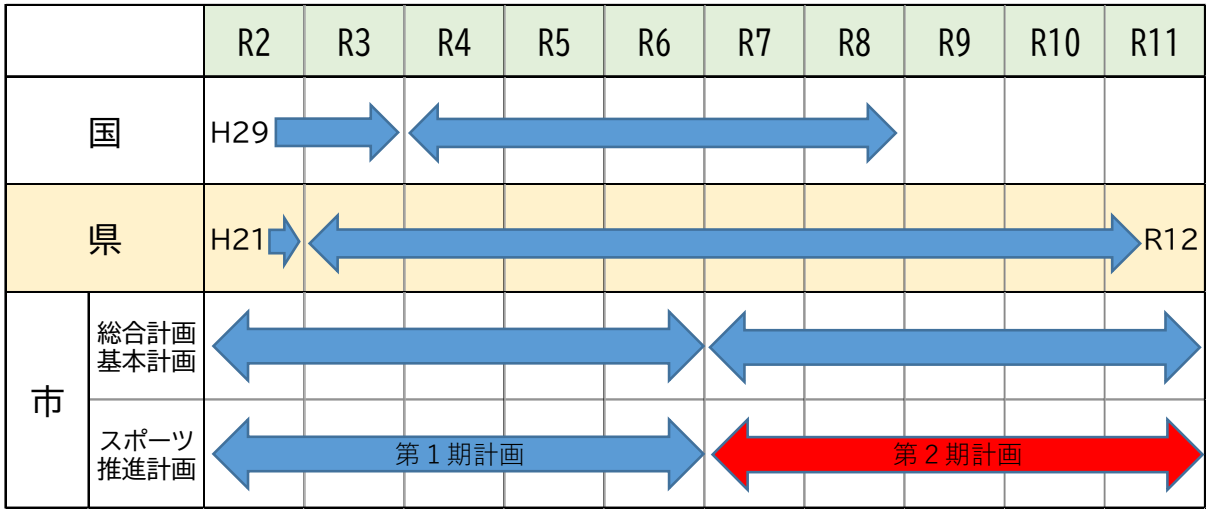
本市におけるスポーツの推進に関して、国、県及び各種スポーツ団体などの関係機関並びに市民との連携を図りながら、計画的かつ横断的な取組を進めるための指針を定め、施策の方向性を明らかにします。



（３）計画の期間

本計画の期間は、上位計画である大分市総合計画基本計画の計画期間とあわせ、２０２５（令和７）年度から２０２９（令和 11）年度までの５年間としています。

○ 国、県、市の計画期間



２．現状と課題

（１）第１期計画の進捗状況

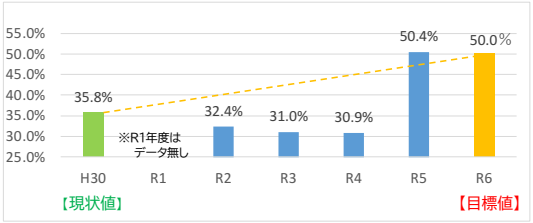
「第１期計画」において、３つの基本施策のもと、全部で１０個の数値目標を設定し、取組を進めたところです。計画最終年度ではありませんが、２０２３（令和５）年度末時点で、達成が３項目、一部達成が１項目となっています。一方で、未達成が６項目という状況にあります。

基本施策１．ライフステージ等に応じたスポーツの推進

目標	・市民一人ひとりがレベルや志向、環境にあったスポーツ活動の推進 ・スポーツ・ボランティアの活用の推進

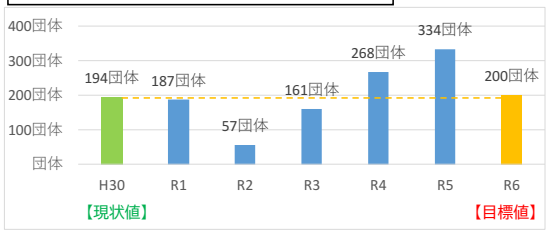
指標	現状値 2018（平成30）年度	2023（令和5）年度	目標値 2024（令和6）年度	達成状況
①週1回以上のスポーツ実施率	35.8%	50.4%	50.0%	達成
②全国大会以上の大会に出場する団体数（生徒は九州大会を含む）	194団体	334団体	200団体	達成
③運動をすることが好きな児童生徒の割合	小学生63% 中学生57%	小学生65% 中学生58.3%	小学生65% 中学生60%	一部達成
④スポーツ指導者研修会の参加者数	910人	976人	1,200人	未達成

【目標値①】 週1回以上のスポーツ実施率



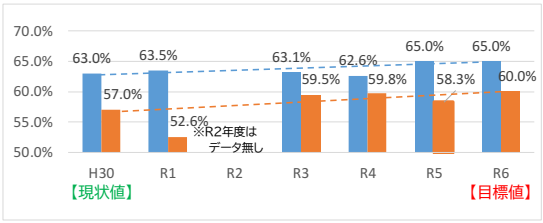
出典：「大分市民意識調査」及び「大分市民のスポーツに関するアンケート」

【目標値②】 全国大会以上の大会に出場する団体数（生徒は九州大会を含む）



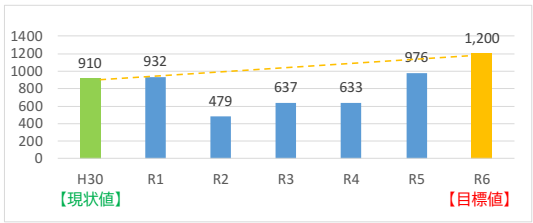
出典：大分市

【目標値③】 運動することが好きな児童生徒の割合（小学生・中学生）



出典：「大分県児童生徒の体力・運動能力等調査」

【目標値④】 スポーツ指導者研修会の参加者数



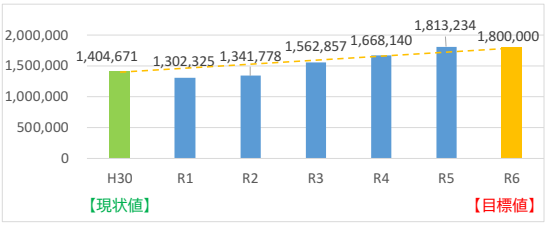
出典：大分市

基本施策２．スポーツをする「場」の整備・確保

目標	・スポーツ施設の計画的な整備・充実を図り、本市スポーツ振興の基盤づくりの推進 ・本市が有する自然環境や学校体育施設等の有効活用 ・地域住民の交流の「場」、さらには、運動やスポーツを通じた「地域づくり」の拠点づくり

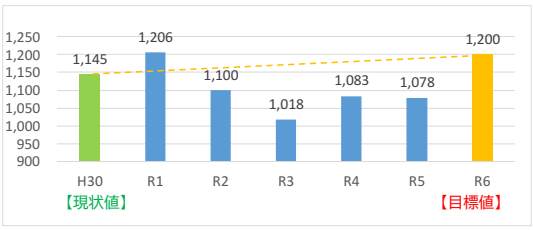
指標	現状値 2018（平成30）年度	2023（令和5）年度	目標値 2024（令和6）年度	達成状況
①市営有料スポーツ施設の利用者数	1,404,671人	1,813,234人	1,800,000人	達成
②学校体育施設の利用団体延べ数	1,145団体	1,078団体	1,200団体	未達成
③公共施設案内・予約システム新規登録者数	1,022人	976人	1,100人	未達成

【目標値①】 市営有料スポーツ施設の利用者数



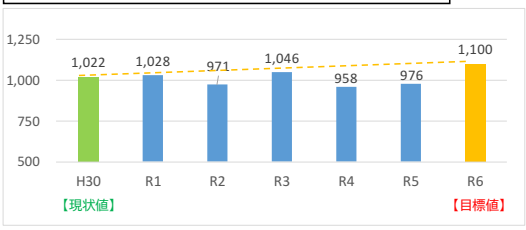
出典：大分市

【目標値②】 学校体育施設の利用団体延べ数



出典：大分市

【目標値③】 公共施設案内・予約システム新規登録者数



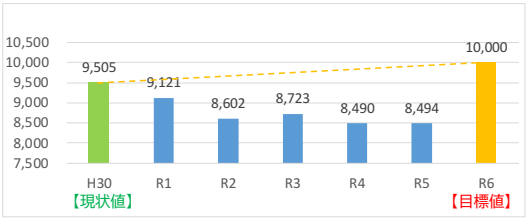
出典：大分市

基本施策３．スポーツを通じた地域活性化と魅力発信

目標	・本市のスポーツ資源を活用した施策を展開するほか、観光資源等他の分野の取組と組み合わせたスポーツツーリズムの推進 ・インターネット等を活用した情報提供 ・スポーツ資源を活かした地域の活性化と魅力発信

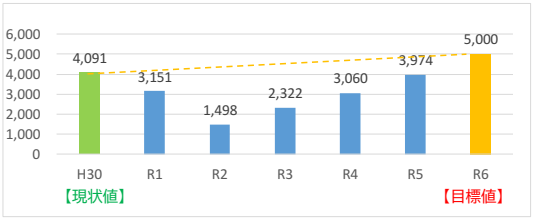
指標	現状値 2018（平成30）年度	2023（令和5）年度	目標値 2024（令和6）年度	達成状況
①総合型地域スポーツクラブの会員数	9,505人	8,494人	10,000人	未達成
②スポーツフェスタ参加人数	4,091人	3,974人	5,000人	未達成
③ホームタウンチームのホームゲーム観戦者数	203,110人	218,865人	220,000人	未達成

【目標値①】総合型地域スポーツクラブの会員数



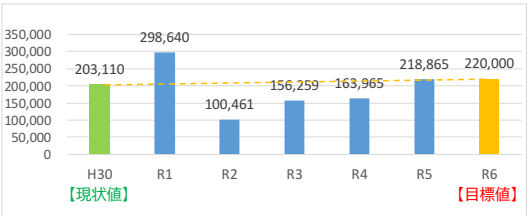
出典：大分市

【目標値②】 スポーツフェスタ参加人数



出典：大分市

【目標値③】ホームタウンチームのホームゲーム観戦者数



出典：大分市

（２）第１期計画の総括

①　成果

「第１期計画」は、基本施策ごとに目標を設定し、具体的施策を展開することで、本市のスポーツ推進に取り組んできました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、施設の休止や本市事業をはじめ県、関係団体のイベント等も中止となったほか、プロスポーツの試合において観客の入場制限が行われるなど幅広い影響を受けることとなりました。

その一方で、のつはる天空広場をはじめとした新規施設の開設を進めるとともに、既存施設の計画的な改修などに取り組むことで、市営スポーツ施設の利用者数は増加傾向であり、目標を達成するなど、一定の成果を収めることができました。

基本施策１．ライフステージ等に応じたスポーツの推進

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、イベントや各種大会を中止せざるを得ない時期もありましたが、その後はコロナ禍前の水準まで活動を戻すことができました。スポーツフェスタをはじめとしたイベントなど、さまざまな世代がスポーツに親しむ機会の創出を図る中で、週１回以上のスポーツ実施率をはじめとした各種目標値のうち、一部達成を含めて三つを達成することができました。

基本施策２．スポーツをする「場」の整備・確保

大南地区で新たなスポーツ施設の整備を進めるなど全市的な視野に立った地域バランス等を考慮した公共スポーツ施設の整備を推進しました。また大分都市広域圏にある公共施設を相互利用するために公共施設案内予約システムを構築し、利用者の利便性向上に努め、市営有料スポーツ施設の利用者数については目標値を達成することができました。

基本施策３．スポーツを通じた地域活性化と魅力発信

「ホームタウンチームのホームゲーム観戦者数」については、コロナ禍による観客の入場制限等の影響により一時的に大きく落ち込みましたが、計画期間中におけるホームタウンチームの増加の影響もあり、２０２３（令和５）年度実績が約 219 千人と、目標値の 220 千人の目前まで迫ることができました。

こうしたホームタウン推進事業の推進や、スポーツコミッション推進事業による合宿の誘致、別府大分毎日マラソン大会などの各種大会等を通じて本市の魅力を発信することができました。

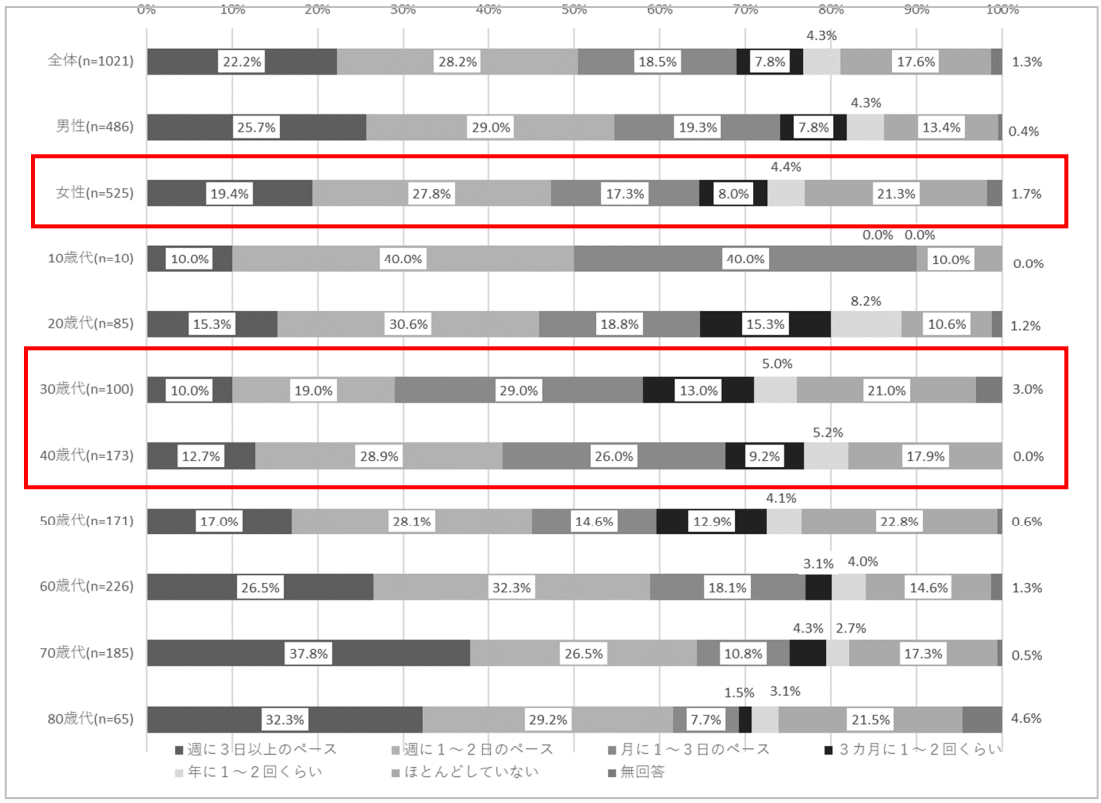
② 課題

基本施策１．ライフステージ等に応じたスポーツの推進

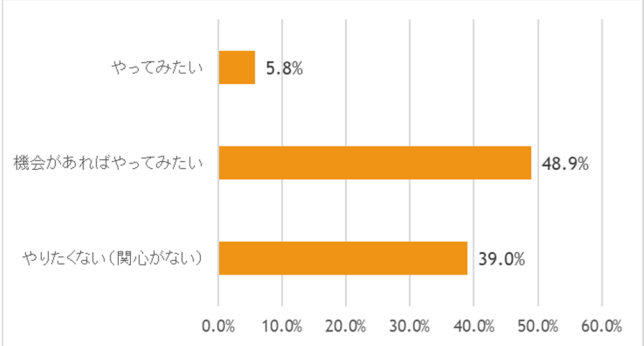
週１回以上の運動・スポーツ実施率については、全国的な傾向と同様に本市も女性や働く世代、特に 30 歳台と 40 歳台において低い傾向が見られます。全体の実施率を上げるためにも、女性や働く世代のスポーツ実施率をどのように向上させるかが課題となっています。

また、スポーツボランティア活動への関心の増加がみられることから、スポーツを「する」、「みる」だけでなく、「支える」といった多様なニーズに応えることが求められています。

○この１年間に行った運動やスポーツの実施頻度



○スポーツにかかわるボランティア活動への今後の参加意向



※両グラフとも大分市民のスポーツに関するアンケート調査結果より（２０２３（令和５）年度）

基本施策２．スポーツをする「場」の整備・確保

既存施設の老朽化や、それに伴う維持管理コストの増大といった課題が顕在化しています。今後は、利用者ニーズを踏まえ、引き続き施設の計画的な維持管理を行い、民間も含めた既存施設の有効活用を進めていくことが求められています。

また、東京 2020 オリンピックやパリ 2024 オリンピックで若い世代が活躍したスケートボードやＢＭＸといったアーバンスポーツは、若い世代が活躍することで注目を集めることとなりました。アーバンスポーツをはじめとした新たなニーズに対応する施設整備について検討を行う必要があります。

基本施策３．スポーツを通じた地域活性化と魅力発信

国の「第３期スポーツ基本計画」において、全国各地域がスポーツによる地方創生、まちづくりに取り組み、それらを将来にわたって継続させ、各地に定着させるよう、促進するとしております。一方で、スポーツ合宿や大会の誘致については、取り組む自治体が増加し、近年では都市間競争の側面が強くなりつつあります。充実したスポーツ環境をはじめとした本市の強みを生かし、積極的に取り組むことが求められています。

また、本市の各校区・地区のスポーツ活動を支える総合型地域スポーツクラブやスポーツ推進委員については、メンバーの高齢化といった問題に直面しており、世代交代や人員の確保が急務となっています。

第２章　スポーツ振興施策

１．基本目標及び基本施策

（１）基本目標

「第２期計画」では、本市が目指す姿を広く市民にお示しすることで、市民の意識醸成を図り、さらなるスポーツの振興につなげるため、基本目標を設定します。

誰もがスポーツにアクセスでき、適性や能力に応じたスポーツに取り組んだり、スポーツを見ることで活力を得たり、支えることで多くの人と交流し、共感する中で、それぞれの個性をはぐくみ、その成長を実感できるまちづくりを目指します。

基本目標

誰もがスポーツを通じて個性をはぐくみ、ともに成長できるまち

（２）基本施策

本市の最上位計画である大分市総合計画の「めざすまちの姿」及び基本的な政策を踏まえ、国の「第３期スポーツ基本計画」で示された新たな視点や県の「第２期大分県スポーツ推進計画」の方向性を参酌し、本計画の基本目標の実現を図るため、４つの基本施策を設定します。

基本施策１

ライフステージ等に応じたスポーツの推進

基本施策２

スポーツを支える環境づくりの推進

基本施策３

競技スポーツの振興

基本施策４

スポーツによるまちづくり

２．計画の体系及び数値目標

（１）基本施策１　ライフステージ等に応じたスポーツの推進

市民一人ひとりがレベルや志向、環境に見合ったスポーツ活動を推進することにより、こどもから高齢者・障がい者を含めた市民の誰もがスポーツにアクセスでき、日常的にスポーツを楽しむことができるようになります。

そのために、３つの具体的施策を設け、取組を進めます。

まず、本市として**生涯スポーツの推進**に向けて、庁内横断的に連携を取る中で、広く市民が参加できる各種スポーツ事業の充実を図ります。

次に、本市にあるスポーツに関係するさまざまな団体と連携・支援を行うことで、**多様な主体におけるスポーツを「する」機会の創出**を図り、地域における多様なスポーツ活動を推進します。

同時に、スポーツイベントや施設情報の提供、予約機能の充実など**スポーツを「する」ための仕掛けづくり**に取り組みます。

具体的施策①生涯スポーツの推進

生涯にわたってスポーツに親しむ基礎を培うため、幼少期からスポーツに親しみ、楽しむことができる環境づくりが大切です。こども自身が楽しみながら積極的に体を動かすことができる機会の創出を図ります。また、児童生徒の体力向上を図っていくには、学校体育の果たす役割が大変重要です。

大分市民意識調査によると、働き世代や子育て世代で運動・スポーツ実施率が低い結果となっています。親子で気軽に参加できるスポーツ活動など、こうした世代がスポーツに親しむ機会の充実に取り組みます。

あわせて、高齢者がいつまでもいきいきと生活を送れるとともに、障がいの有無等にかかわらずあらゆる市民が各々の状況に応じてスポーツを気軽に楽しむことができる環境の整備に努めます。

＜主な取組例＞
・幼児教育・保育施設における運動遊び
・教職員への研修などを通じての学校体育の充実
・本市主催の各種スポーツ大会の開催
・障がい者スポーツ交流活動の促進
・大分市スポーツフェスタの開催
・豊の国ねんりんピック出場補助

数値目標①

■週１回以上のスポーツ・運動実施率

現状値(2023(令和5)年度)		目標値(2029(令和11)年度)
５０．４%	→	７０．０%

数値目標②

■運動することが好きな児童生徒の割合

現状値(2023(令和5)年度)		目標値(2029(令和11)年度)
小学生　６５．０%	→	小学生　６５．０%
中学生　５８．３%	→	中学生　６０．０%

コラム１～ｅスポーツについて～

コンピューターゲームをスポーツ競技とするｅスポーツについては、第１回オリンピックｅスポーツ大会が２０２５（令和７）年にサウジアラビア主催で開催されることが国際オリンピック委員会から発表され、世界的に広がりを見せています。また、高齢者の認知機能の維持や改善に効果があると報告されるなど、さまざまな効果が期待されているところです。

今後、本市のスポーツ振興に大きな影響を与える可能性があることから、その動向を注視するとともに、先進事例の調査研究を進めます。

具体的施策②多様な主体におけるスポーツを「する」機会の創出

本市には、校区・地区の住民で組織された校区・地区体育（スポーツ）協会、地域住民の誰もがスポーツ活動に参加できる受け皿としての総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団をはじめとしたさまざまなスポーツ関連団体が存在しています。各団体と協力・連携を図る中で、市民が地域の身近な場所で、気軽にスポーツを「する」ことができる機会の創出を図っていきます。

＜主な取組例＞
・校区・地区体育（スポーツ）協会の取組への支援
・各種競技団体との連携
・スポーツ少年団の活動への支援
・大分県障がい者スポーツ協会との連携
・総合型地域スポーツクラブの新設・運営への支援

数値目標③

■総合型地域スポーツクラブ会員数の増減率（各クラブの平均）

現状値 (2019(令和元)年度から 2023(令和5)年度)		目標値 (2025(令和6)年度から 2029(令和11)年度)
△１５．０５%	→	１０．０%※

※２０２３（令和５）年度比で各クラブの増加率の平均値

コラム２～部活動の地域移行について～

本市における部活動の地域移行については、２０２４（令和６）年度に取りまとめられた「大分市立中学校部活動地域移行検討委員会報告書」を踏まえ、２０３０（令和１２）年度を目途に休日の活動を学校管理下から地域での活動への移行を推進していくこととしています。

「報告書抜粋」

方向性
- 休日に行われている学校部活動を複数の方策により移行
- 生徒に対する専門的な指導の実施
- 教員が指導に携わらなくても良い環境の構築

部活動の地域連携	→	部活動の地域移行
部活動指導員と特別外部指導者に地域の人材を活用することにより、休日の指導体制を構築する。		受け皿団体と部活動の地域連携による指導者と連携し、「地域クラブ活動」の運営体制を構築する。

具体的施策③スポーツを「する」ための仕掛けづくり

スポーツイベントの開催、地域のスポーツ活動など、市民がスポーツに親しむきっかけとなるスポーツ情報を、市報、ホームページに加え、SNS などさまざまな媒体を活用し、発信していきます。また、施設情報の提供や予約機能の充実といった施設利用者の利便性を図るなど、市民のスポーツを「する」につながる仕掛けづくりに取り組みます。

＜主な取組例＞
・健康アプリ「おおいた歩得（あるとっく）」の推進
・大分都市広域圏公共施設相互利用システムの運用
・学校体育施設、幼児教育・保育施設の園庭の開放

数値目標④

■公共施設案内・予約システムの年間予約件数（スポーツ施設分のみ）

現状値(2023(令和5)年度)		目標値(2029(令和11)年度)
１２４，３８８件	→	１４０，０００件

（2）基本施策２　スポーツを支える環境づくりの推進

市民の誰もがスポーツにアクセスするためには、地域で身近に利用できるスポーツ施設が重要です。また、スポーツ活動を推進していくためには指導者やボランティアといった支える人々が必要不可欠です。

そのために、２つの具体的施策を設け、取組を進めます。

まず、スポーツを「する」「みる」場である**スポーツ施設の管理**を適切に行い、市民が安全・快適にスポーツを楽しめる環境の充実に取り組みます。

次に、スポーツの普及・促進を担うスポーツ指導者や、イベントや地域のスポーツ活動をささえるボランティアなど、**スポーツを指導・支援する人材の育成**を図り、地域スポーツの活性化につなげていきます。

具体的施策①スポーツ施設の管理

スポーツ施設の管理については、計画的な施設の維持管理、既存施設の有効活用などストック適正化を図るとともに、更新時期を迎える施設については、長期的な視点に立ち、民間活力の活用等を考慮しながら、計画的な整備・充実に努めます。あわせて、本市が有する豊かな自然環境を生かしたスポーツ・レクリエーション活動の場の整備・充実に努めます。

また、東京 2020 オリンピックやパリ 2024 オリンピックで若者の活躍により注目を集めたアーバンスポーツなど、新たな市民ニーズに対応する施設の整備について検討を進めます。

＜主な取組例＞
・社会体育施設管理運営・整備事業
・大南地区スポーツ施設整備事業
・のつはる少年自然の家施設整備事業
・都市公園事業

数値目標①

■市営有料スポーツ施設の利用者数

現状値（2023（令和5）年度）		目標値（2029（令和11）年度）
１，８１３，２３４人	→	２，０００，０００人

具体的施策②スポーツを指導・支援する人材の育成

スポーツ指導者の養成や確保に向けて競技団体をはじめとした各種団体との連携を図るとともに、指導者等を対象に競技力向上やリスクマネジメント等に資する講演会や研修会を開催します。また、地域のスポーツコーディネーターであるスポーツ推進委員の資質向上を図るため、各種研修を行います。

市民のスポーツを「ささえる」といったニーズに対応するため、スポーツイベントをはじめとした各種事業において、ボランティアの活用を促進します。あわせて、ボランティアの募集情報については、より多くの方が参加できるよう市民への周知方法を検討していきます。

＜主な取組例＞
・スポーツ少年団指導者・母集団研修の開催
・スポーツ推進委員研修会の開催
・別府大分毎日マラソン大会市民ボランティアの募集

数値目標②

■スポーツ指導者研修会の参加者数※

現状値(2023(令和5)年度)		目標値(2029(令和11)年度)
９７６人	→	１，１００人

※スポーツ少年団、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ、部活動指導者の研修会の総数

数値目標③

■別大マラソンボランティア数

現状値(2024(令和5)年度)		目標値(2029(令和11)年度)
１，０６３人	→	１，２００人

（3）基本施策３　競技スポーツの振興

少子化や人口減少が進む中で、競技人口の確保が課題となっています。市民一人ひとりの適性や能力に応じたスポーツを見つけるためにも、さまざまな競技スポーツを維持していく必要があります。また、本市出身の選手を支援し、全国大会等で活躍することで、市民のスポーツに対する興味・関心を創出することにつながります。

そのために、具体的施策　**競技スポーツの振興**を設け、取組を進めます。

具体的施策①競技スポーツの振興

各種競技団体の活動を支援し、競技スポーツの普及を図るとともに、全国規模のスポーツ大会に出場するチームに対して支援することにより、競技力の向上に努めます。

また、県や大学・企業等との連携を強化し、競技スポーツの振興に努めます。

＜主な取組例＞
・全国大会等出場補助
・全国大会等における優勝等への市長表彰
・県民スポーツ大会の開催及び参加

数値目標①

■全国大会以上の大会に出場する団体数（生徒は九州大会を含む）

現状値(2023(令和5)年度)	目標値(2029(令和11)年度)
３３４団体 →	３５０団体

数値目標②

■県民スポーツ大会における優勝種目数

現状値(2023(令和6)年度)	目標値(2029(令和11)年度)
１５競技 →	２３競技

（4）基本施策４　スポーツによるまちづくり

本市をホームタウンとするプロスポーツチーム、スポーツ合宿や各種スポーツ大会の誘致などによってスポーツを「みる」機会の創出を図ります。あわせて、多様なプロスポーツやトップアスリートとの交流を通じて、さまざまな人があつまり、ともに活動し、つながりを感じながらスポーツを楽しめる社会の実現を目指します。また、これらの取組などから派生する社会的効果、経済的効果を活用したまちづくりを推進します。

そのために、３つの具体的施策を設け、取組を進めます。

まず、本市をホームタウンとするプロスポーツチームが複数あることから、そうした**プロスポーツチームと連携したまちづくり**を行い、地域の活性化を図ります。

次に、本市のスポーツ資源を生かし、**スポーツ合宿及び各種スポーツ大会などを通じた地域の活性化**を図ります。

次に、スポーツをシティプロモーションや国際交流の機会のひとつととらえ、**特性を生かした他分野連携による事業展開**を図ります。

具体的施策①プロスポーツチームと連携したまちづくり

本市をホームタウンとするプロスポーツチームの活躍は、地域に元気と勇気をあたえてくれます。また、地域が一体となってささえることで、住民の一体感や地域活性化に寄与することから、市民との交流活動の場を設定するとともに、応援する気運を高めていく必要があります。

＜主な取組例＞
・プロスポーツふれあい促進事業
・ホームタウン推進事業
・ホームゲーム市民招待事業

数値目標①

■年１回以上スポーツ観戦する市民の割合※

現状値（2023（令和6）年度）		目標値（2029（令和11）年度）
調査中	→	未定

※本市を拠点に活動しているプロスポーツチームの試合を、市内で観戦した割合

具体的施策②スポーツ合宿及び各種スポーツ大会などを通じた地域の活性化

スポーツが持つ社会的効果や経済的効果をまちづくりに生かすために、スポーツ合宿の誘致や国際大会等の大規模大会の開催など、本市のスポーツ資源を活用した施策を展開します。

＜主な取組例＞
・別府大分毎日マラソン大会の開催
・大分国際車いすマラソンの開催支援
・アーバンスポーツフェスの開催
・OITA サイクルフェスの開催
・スポーツコミッション推進事業

数値目標②

■合宿団体誘致数※

現状値 (2020(令和2)年度から 2023(令和6)年度)		現状値 (2025(令和7)年度から 2029(令和11)年度)
３８団体	→	４５団体

※５年間の累計数となります。

具体的施策③特性を生かした他分野連携による事業展開

各種大会や試合、合宿等への参加、観戦を目的に県外から訪れる方に、本市の魅力をアピールするなどシティプロモーションに努めます。また、大分都市広域圏や九州内の他都市と連携を図りながら、本市の魅力の発信を図ります。

あわせて、国際大会や海外からの合宿などは、シティプロモーションだけでなく、国際交流の機会のひとつととらえ、スポーツの多面的効果を活用した施策展開を図ります。

＜主な取組例＞
・各種大会・試合や合宿を通じたプロモーション
・大分都市広域圏サイクリング大会
・九州Ｊリーグホームタウン連携事業

第３章　計画の推進に向けて

１．協働による推進体制

本計画の効果的な推進にあたっては、行政のみならず、市民やスポーツ関係団体、プロスポーツチーム、大学、企業等の関係団体が本計画の基本理念を共有し、連携・協働して取り組むことが重要です。

（１）庁内横断的な連携

本計画の推進に当たり、高齢者や障がいがある方、市民の健康を所管する福祉保健部、幼児教育・保育を所管する子どもすこやか部、生涯学習や学校教育を所管する教育部など、さまざまな部局との連携を図ります。

（２）国、県、関係団体等との連携

国や大分県との情報共有を図りながら、各種事業などの連携を進めます。また、スポーツ推進委員協議会、スポーツ少年団、競技団体をはじめとした関係団体等が役割分担を明確にしながら、連携・協同して計画を推進していきます。

２．計画推進のための財源確保

スポーツ施策を推進していくためには、安定した財源の確保が必要です。財源は、市税のみに頼らず、スポーツ振興くじの助成制度の活用や施設のネーミングライツ、広告料収入、民間活力の活用など、あらゆる手法による新たな財源の確保に努めます。

３．計画の進行管理

本計画推進のための具体的な取組をまとめた「第２期大分市スポーツ推進計画」アクションプラン（以下「アクションプラン」という。）を定めます。このアクションプランは、本計画に定める具体的施策項目ごとの事業や取組を掲げたもので、これらの個別事業や取組の進行管理を行うことで、本計画の進捗状況を評価・検証を行います。適宜、大分市スポーツ推進審議会に報告し、意見をいただきます。

評価・検証を踏まえ、年度ごとにアクションプランを更新することで、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）の PDCA サイクルによる進行管理を行い、より効果的な事業や取組の展開を図ります。

○ 用語解説

・スポーツ・インテグリティ

「インテグリティ」とは、高潔さ・品位・完全な状態を意味する言葉であり、スポーツ・インテグリティとは、「スポーツが様々な脅威により欠けるところなく、価値ある高潔な状態」を指している。国の第 3 期スポーツ基本計画においては、スポーツ関係者のコンプライアンス違反や体罰、暴力等の根絶を目指すとともに、スポーツ団体のガバナンスを強化し、組織運営の透明化を図るなどの取組を進めている。

・総合型地域スポーツクラブ

地域住民によって自主的・主体的に運営され、多世代、多種目、多志向という特徴を有し、住民が身近な地域でスポーツに親しむことのできるスポーツクラブ。

・ホームタウンチーム

本市を拠点とする大分トリニータ、バサジィ大分、大分Ｂ－リングス、Sparkle Oita Racing Team のこと。

・アーバンスポーツ

広い競技場などを必要とせず都市のなかでできる、若者の遊びから生まれたスポーツ。

・ＢＭＸ

「Bicycle Motocross（バイシクルモトクロス）」の略で自転車競技の一種。

・ｅスポーツ

「Electronic Sports（エレクトロニック・スポーツ）」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称。

・ストック適正化

人口動向の変化や各施設の老朽化などに対応しながら、限られた予算の中で、適正な整備、統廃合、維持保全などを行うこと。

・スポーツコミッション推進事業

本市では、スポーツ振興による地域の魅力向上、交流人口の拡大等による地域の活性化を図るため、大分県と連携し、事前キャンプやスポーツ合宿、国際的なスポーツイベントの誘致に取り組んでいる。